

探訪 北の風景 26

道南いさりび鉄道

函館—木古内

青木和弘

北海道新幹線の開業でJR北海道から経営分離して開業した「道南いさりび鉄道」に乗った。旧江差線で、鉄道マニアなどから「いさ鉄」と呼ばれる第三セクター鉄道だ。

函館駅の一つ手前にある五稜郭駅から木古内駅までの37・8キロメートル。普通列車だけで営業する。だが、この区間は、北海道と本州を結ぶ貨物列車の大動脈に変わりはない。木古内駅から先は「海峡線」になり新幹線の2本のレールの内側に、在来線の狭いレール幅に合わせた3本目のレールが敷かれている。在来車両も青函トンネルをくぐることができるのだ。

いさ鉄は、開業後10年で23億円の営業赤字を見込む。増収の知恵が必要だ。営業強化の切り札は「観光客誘致」。観光列車「ながまれ海峡号」の運行など、沿線の恵まれた食材や観光資源を生かしたグルメ旅の企画を日本旅行（東京）とタイアップして進めている。函館観光のオプショナルツアーに最適なのだ。

沿線にはトラピスト修道院や、木古内みそぎ祭り（1月）がある。その先には、福島町の青函トンネル記念館や千代の山・千代の富士記念館。松前町の城と桜、江差町の歴史的景観や軍艦・開陽丸など見どころは多い。

ゴールデンウィーク最後の日曜日、函館は晴れていたが風が強かった。函館朝市をぶらりと歩いてから、函館駅に向かった。改札口の左手に、いさ鉄専用の小さな券売機があった。函館から木古内駅まで1110円。料金は3割ほど値上がりした。上り列車は上磯行きが10本、木古内行きが9本。所要時間は上磯（函館からの営業キロ12・2キロ）までが約20分、木古内（同41・2キロ）まで約1時間で、多少、列車によって違いがある。下り列車の本数も同数だ。

13時29分発の列車は、シルバーの車体にグリーンとブルーのラインが入ったJR北海道と同じデザインの新車両で、2両編成だ。函館からの乗客は2両合わせて16〜17人ほど。列車のエンジンがか

住民の足を守るため営業努力が必要
な道南いさりび鉄道 木古内駅



かると、静かに動き出した。次の五稜郭駅まではJR北海道の線路である。

五稜郭駅にはコンテナを積んだ長い貨物列車が停車していた。乗客は前後合わせて50人ぐらいに増えた。車内では女学生が7、8人、つり革につかまり、楽しんでおしゃべりを

している。ここから先は終点の木古内まですべて無人駅だ。「ワンマン運転のため、前の車両からお降りください」とアナウンスが入る。運転手が停車する度に切符を受け取り定期券を確認する。

次は七重浜駅。駅を過ぎると右手に石油タンク群が姿を見せる。東久根別の駅舎は貨物列車の車両ワフ29500形を改良したものだ。次の久根別駅では、コンテナ列車との待ち合わせで3分ほど停車した。新幹線のダイヤの隙を縫って青函トンネルを抜けてきたJR貨物の列車だ。

清川口駅が北斗市役所の最寄り駅になる。上磯駅を過ぎ、左の車窓に太平洋セメントの大きな工場が現れ、街並みや杉林を越えようと、待望の海が見えた。正面が函館山だ。

茂辺地駅を過ぎると渡島当別駅になる。ここは





道南いさりび鉄道の車窓から眺める茂辺地漁港と函館山。四季折々、時刻によっても風景は変化する



木古内駅の新幹線ホームには、170円の入場券で入ることができる。鉄道ファンがたくさんカメラを構えて新幹線車両の到着を待ちかまえていた

トラピスト修道院への最寄り駅。唱歌「赤とんぼ」の詩を書いた三木露風ゆかりの地で石碑がある。釜谷駅は、貨車ワム80000形を改造した青い駅舎。泉沢駅、札内駅を過ぎると終点木古内だ。ここにはJR北海道の新幹線駅がある。駅の向かいにある道の駅「みそぎの郷きこない」には、有名シェフの人気レストラン「どうなんde's」などがあり、観光客で大にぎわいだっただ。駅前から松前、江差方面へは函館バスが運行している。私は、城と桜を見に松前へ向かった。所要時間は約1時間半だ。

道南漁り火鉄道は2015年8月1日設立、2016年3月26日開業。資本金4億6600万円。小上一郎社長、株主は北海道、北斗市、函館市、木古内町、JR貨物、ホクレン。従業員73人。本社・函館市。